

学 校 名	宮 城 学 院 女 子 大 学	研究所名等		
研 究 課 題	命の大切さを学ぶ防災・減災教育プログラムの開発と評価 —東日本大震災における幼児・保育施設の事例を通して—		研 究 分 野	教 育 学
キ ー ワ ー ド	①防災教育プログラム、②東日本大震災、③命の大切さ、④保育者養成、⑤幼児教育			

○研究代表者

氏 名	所 属	職 名	役 割 分 担
西 浦 和 樹	宮城学院女子大学 教育学部教育専攻 幼児教育	教 授	研究の統括(防災教育プログラムの開発と評価)

○研究分担者

[illegible]

命の大切さを学ぶ防災・減災教育プログラムの開発と評価 —東日本大震災における幼児・保育施設の事例を通して—

1. 研究の目的

我が国の防災・減災教育プログラムに関する研究は、小中学生を対象としたものが大半を占め、保育学生を対象とした研究は極めて少ない。本研究では、保育学生を対象とした被災地研修プログラムを実施し、学生の意識変化と学習効果を分析することを目的とした。

西浦ら（2023）の研究では、被災地研修を通じて「命の大切さ」や「保育者としての防災意識」の向上が期待されることが示された。しかしながら、研修参加者の属性（実践知や動機づけ）による学びの深さの違いについての詳細な分析は不十分であった。そこで、本研究では、災害発生時における保育者の適切な対応に焦点を当て、被災地研修による学生の意識変化と学習効果を検討した。

2. 研究の計画

本研究では、幼児教育専攻の3年生47名を対象に、事前研修および被災地研修を実施した。事前研修では、子どもの生命を守るための危機管理体制構築について講義を行った後、2023年7月1日に石巻市震災遺構門脇小学校において被災地研修を実施した。研修では、元小学校教員および現役保育士による講話を聴講し、現場の実情を学んだ。学習効果の測定のため、研修前後にアンケートを実施し、「被災地研修に興味があるかどうか」を二択で回答させた。また、研修後の自由記述データを生成AI（ChatGPT3.5-turbo）を用いて分析し、学習内容の傾向を明らかにした。

3. 研究の成果

アンケート結果では、「興味あり→興味あり（35名）」「興味なし→興味あり（8名）」のデータを使用し、「興味なし→興味なし（3名）」「興味あり→興味なし（1名）」は除外した。自由記述データの分析結果により、参加学生の学びの内容を以下の2つのグループに分類した。

- ・ **興味分類1（研修によって興味を持ったグループ）**
 - 日常生活から防災への意識を高めることの重要性
 - 避難訓練や防災教育の実施の重要性
 - 異年齢間の交流による防災意識の向上
 - 保育者としての災害時対応の理解
- ・ **興味分類2（もともと興味が高く、深い学びを得たグループ）**
 - 二次避難・三次避難の計画の重要性
 - 地域の協力による避難の実施
 - 判断力と迅速な行動の必要性
 - 避難所の事前決定と確保
 - 教師の指導力と防災意識の醸成
 - 地域との連携強化

この結果から、被災地研修を通じて、新たに興味を持った学生（興味分類1）は、探索行動を通じて学びを深めるプロセスにあった。一方、もともと興味が高かった学生（興味分類2）は、認識行動を通じてより専門的で実践的な理解を深めたことが示唆された。

4. 研究の反省・考察

本研究では、被災地研修が保育学生の意識変化と学習効果に与える影響を分析した。その結果、動機づけの高さによって学びの深さが異なることが明らかとなり、学習プロセスを好奇心の探索行動と認識行動の観点から説明できることが示された。今後の防災教育では、事前学習の充実や学習者の興味関心を高める工夫が求められる。

キーワード：好奇心、内発的動機づけ、社会的学習理論

5. 研究発表

(1) 学会誌等

- ① 兪幀蘭・西浦和樹・伊藤哲章・守渉・平川久美子（2024）保育者養成における防災教育プログラム開発と教育評価に関する研究：学生の参加意欲が研修効果に及ぼす影響 宮城学院女子大学研究論文集，138，67-77.

(2) 口頭発表

- ① 西浦和樹・伊藤哲章・守渉・平川久美子・兪幀蘭 被災地研修による学生の意識変化と学習効果：教育心理学理論に基づく分析 国際力動的心理療法学会（IADP）第28回年次大会（郡山 2024年9月21日）
- ② 西浦和樹・伊藤哲章・守渉・平川久美子・兪幀蘭 防災教育プログラム開発と教育評価に関する研究：生成AIによる自由記述データの分析 日本教育心理学会第66回総会（アクトシティ浜松 2024年9月15日）

(3) 出版物

なし